

AGU NEWS

青山学院大学

Vol.
18

AGUニュース第18号
[2003年7月～9月号]

青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25

TEL.03-3409-8111 (代表)

URL <http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>



F棟 アーチ (相模原キャンパス)

特集  AOYAMA
GAKUIN
UNIVERSITY

 もっと社会へ、もっと未来へ……
「大学院改革」進行中

理工学研究科の改組計画

青山学院大学の「ビジネススクール」と「ロースクール」

TOPICS

2002年度就職活動を振り返って

FLASH AGU

青山学院大学附置WTO研究センターが発足 等

報告・お知らせ

2003年度後期公開講座・公開講演会
2004年度一般入学試験日程

誌上公開講座

vol.18 エレミヤ福音を待望する預言者—

INFORMATION

夏期休業中の窓口案内
相模原キャンパス開学記念シンポジウム開催報告



青山キャンパス 大学14号館(総合研究所ビル)

青山キャンパス 大学15号館(ガウチャー・メモリアル・ホール)

もっと社会へ、もっと未来へ…… 「大学院改革」進行中

2003年度より「専門職大学院」にグレードアップした「国際マネジメント研究科」、
2004年度開設に向け設置認可申請中の「法科大学院」、
相模原キャンパスという新しいフィールドを得て、
リニューアルを計画中の「理工学研究科」……。
今、青山学院大学の大学院が大きく“動いて”います。
今回の特集では、こうした「大学院改革」の意義やそれぞれの動きについて紹介します。

理工学研究科の改組計画。



理工学部長・理工学研究科長 魚住 清彦

工学専攻)に加え、今年度初めて卒業生を輩出する情報テクノロジー学科に対応する「知能情報コース」を設置。さらに、物理、化学、電気・電子、数学などの学問分野に学際的にアプローチする「基礎科学コース」「生命科学コース」「機能物質創成コース」の3コースを開設します。

新しい大学院教育では、21世紀の高度専門技術者・研究者として求められる社会科学的視点と、技術の国際展開に伴う異文化理解や人間としての素養などを重視。たとえば、「科学技術英語」を各コースの共通の必修科目とし、選択必修科目に技術者の倫理、知的所有権、製造物責任、技術移転と文化などを理解する「科学技術倫理」「リスクベース安全工学」「福祉工学」などを開講し、さらに科学技術に対する幅広い視点を養うため、他コースの専門科目を自由に履修できるカリキュラムとなる予定です。そして各コースにおける最先端研究に取り組む「専門フロンティアプログラム」に加え、最先端の科学技術を複合的な視点からとらえ、社会のさまざまな問題に応用する能力を養う「複合フロンティアプログラム」を開設。社会と技術の関わりを専門的な立場から総合的に学ぶことも可能です。こうした教育研究システムによって、本大学院修了者がシンクタンクやマスコミ、NPOなど、従来以上に活躍の場を広げることも期待されています。

充実した研究環境を地域とシェア

2003年度、理工学部・理工学研究科は相模原キャンパスへの移転によって、「先端技術研究開発センター(CAT)」に加えて「機器分析センター」を設置し、機器・設備などの研究環境もグレードアップしました。現在、産官学(産業・行政・大学)共同での特許取得をめざす「TAMA-TLO」への参加をはじめ、地域の企業との連携など、地域社会への貢献も積極的に図っています。今後は、外部からの分析依頼にも応えられるように機器分析センターには、専門のオペレーターを配置するなどスタッフの充実にも力を注ぐ予定です。こうした理工学研究科の一連の「改革」は、かつて総合大学を目指し理工学部設立に尽力された大木金次郎元青山学院院長が目指された「キリスト教的奉仕の心を基礎に、新しい分野を切り拓く科学者と技術者を養成する」という創部の理念を具現化するものと確信しています。

理工学部の“情報融合系”3学科、機械創造工学科・経営システム工学科・情報テクノロジー学科は2004年3月、初めての卒業生を輩出します。また同年4月、大学院理工学研究科は、現在の5専攻制を1専攻8コース制に改組を計画中です。

今日の科学技術は、まさに日進月歩のスピードで進化を続け、研究面では個別専門分野の追究だけではなく、領域の異なる学問分野を横断的に研究する複眼的視点が求められるようになりました。そして本学理工学部・理工学研究科は、2001年の秋光純教授らによる新しい高温超伝導体の発見、2002年度の「21世紀COEプログラム」研究教育拠点校選定と、科学技術の世界におけるトップランナーの一員であると自負しています。改組後の理工学研究科は、こうした科学技術の最先端を視野に、理学・工学系の融合を目指す学際的な共同研究(コラボレーション)の場として、既存の学問成果を時代の進化に合わせて発展・融合させることができる、より柔軟でフレキシブルな研究活動を実践します。

ますます広がる研究フィールド

新しく生まれ変わる理工学研究科では、理工学部全学科の専門分野をカバーする8コースを設置することが、今回の改組のポイントです。既存の専攻を受け継ぐ「化学コース(旧化学専攻)」「電気電子工学コース(旧電気電子工学専攻)」「機械創造コース(旧機械工学専攻)」「マネジメントテクノロジーコース(旧経営

時代と社会が求める大学院を。



学長 半田 正夫

現在、少子高齢化の進行によって生涯教育のニーズが拡大しています。またグローバル化・高度情報化など、時代状況の急速な変化への対応や、職場におけるスキルアップのためのリカレント教育の重要性が増しており、社会が大学院に期待する役割は、ますます増大しているといえるでしょう。ところがこれまでのわが国における「大学院」は研究者育成に主眼が置かれ、一般社会のニーズに十分対応できるものではありませんでした。2001年度に私立大学初の専門大学院として「国際マネジメント研究科」(2003年4月専門職大学院へ移行)を開設した本学では、現在、2004年4月の法科大学院開設に向け認可申請中です。並行してグローバル化が進む企業会計のプロフェッショナルを育成する「会計学大学院」設置に関する検討にも着手。各学部の協力のもと、きわめてスピーディに大学院改革を進めています。こうした社会人をも対象とした大学院を設置するにあたって、本学には大きなアドバンテージがあります。都心部に勤務する企業人・公務員の方々が無理なく通学でき、最新

の情報が体感できる渋谷の街にキャンパスを有していることです。その“地の利”を生かしつつ、今後、さらに多くの方々の「学びたい」という声に柔軟に応えられる教育サービスを積極的に提供していきたいと考えています。

一方、相模原キャンパスの「理工学研究科」は、研究活動とその成果によって社会に貢献していくことを目指していきます。2002年度の「21世紀COEプログラム」研究教育拠点選定でもわかる通り、本学の理工学部・理工学研究科は世界をリードする存在であり、社会を変えていく大きな発見・発明がここから生まれることが期待されています。同時に地域産業との連携も着実に進め、常に社会との関わりを意識したスタンスで幅広い研究活動を展開していきます。

大学院をはじめとする本学の改革はまだ始まったばかりです。相模原キャンパス開学に向けて全学が一丸となって取り組んだ経験を通して、本学教職員の改革への意志と連帯感がいっそう強いものとなっている現在、「絶えず挑戦し、動き続ける」ことによって、青山学院大学の“存在感”を、もっともっと社会にアピールしていきたいと考えています。

この4月に専門大学院から「専門職大学院」として新たなスタートを切った国際マネジメント研究科。時代をリードするビジネススクールとして入試方式、教育環境、カリキュラムなど、とどまることのない「改革」を進めています。



国際マネジメント研究科長
伊藤 文雄 教授

●大学5号館に教育研究施設を集約

青山キャンパス・大学5号館を改装して、本研究科の教育研究施設がここに集約されました。教室以外に、グローバルクラスルーム、ケーススタディルーム、学生がくつろいだり、情報交換できるラウンジ、自習などに使えるスタディールームなど、ビジネススクールとして充実した教育環境が整備されました。

●入学選抜をAO方式に変更

従来の筆記試験による入学選抜に替わり、2004年度入学より書類審査と口述試問によるAO(アドミッションズ・オフィス)方式の選抜を導入します。同時に、入学試験を複数回に増やし、忙しい社会人の



受験機会を増やします。そして、これまでの昼夜開講制を改め、入学試験とカリキュラムを学部からの進学者中心の「Full-time MBA」と社会人中心の「Flex-time MBA」の2つに明確に分け、それぞれに最適な教育を提供していきます。

私たちは社会人をも含めた学生選抜にあたって、一定のモノサシで能力を計るのではなく、もっと総合的な能力・学力の評価を行っていく必要性を感じていました。筆記試験の点数が足りなければ、その人の潜在的な能力を引き出すことで、上乘せしてあげることが本来の教育＝「人づくり」です。そうした発想から、一切の筆記試験を課さないことにしました。志願者の提出書類には大学の成績証明書、語学資格証明書、自己PR書、推薦書、論文など、志願者自身が自分の能力を効果的にプレゼンテーションできるとされるすべての書類を任意に提出してもらいます。

●「CFO講座」スタート

今年度よりエグゼクティブMBAプログラムに、企業再生の専門家を育成するCFO講座を新設。この講座は日本政策投資銀行との連携で開講され、6月より第1セッションが始まりました。わが国の企業には、経営戦

略のわかる財務担当者が決定的に不足しており、それが不況から抜け出せない大きな要因になっています。本研究科は、経営者に対して企業再生への的確なアドバイスができる最高財務責任者(CFO)の育成を図り、ビジネススクールの存在意義を社会にアピールしていきたいと思っています。

●法科大学院との連携

2004年に開設を予定している法科大学院に国際マネジメント研究科の科目を一部開放するとともに、法科大学院の開設科目を本研究科の学生が履修できるようになる予定です。法律とビジネスは相互に関連する分野ですから、「高度専門職業人養成」という目的に特化した大学院として、積極的にアライアンスを図り、より良い教育サービスを提供できる相互関係を築いていきたいと考えています。そして、専門職大学院のビジネススクールとロースクールをどちらも有していることは、これからの青山学院大学にとって、高等教育機関としての大きな強みになることでしょう。



青山キャンパス 大学5号館

青山学院大学の「ビジネススクール」と「ロースクール」

法科大学院の開設に向けて設置認可申請中。新司法試験合格はもろろん、世界を舞台に活躍できる法曹の育成を目指した国際派ロースクールの誕生に、今、大きな期待が集まっています。



5月21日(水)、青山キャンパスで「青山学院大学法科大学院説明会」が開催されました。当日、会場には法学部3・4年生はもちろん、相模原キャンパスで学ぶ1・2年生、他大学の学生も数多く集まるなど、本学の法科大学院設置への大きな期待が感じられました。ここでは、その概要とカリキュラム、そして新しく設けられる施設・設備などについて解説します。

◆◆◆
●法科大学院の概要

本学法科大学院は、キリスト教理念に基づき、真理を追究し、ヒューマニティーに溢れ、社会的責任を果たすことのできる、

国際的視野を持った法律専門家の養成教育を目指します。

●カリキュラムの特色

カリキュラムでは、新しい司法試験の合格に向けた法律のCommon basicを確実に押さえつつ、例えば外国人教員らが欧米法、国際取引、国際司法、人権に関する科目を担当。グローバルに活躍できる法曹を育成する国際的な法要素を重視し、ITを駆使して海外の大学と英語でディスカッションする授業も計画しています。また、専門職大学院国際マネジメント研究科の協力を得て、国際ビジネス取引の現場で活躍できる素養を身につける教育も行っています。

●教育施設・設備

法科大学院専用施設として、現在、青山キャンパスの大学3号館の改築計画が進行しています。1階には資料室、ラウンジ、2・3階は情報コンセントを備えたデスクを配置した自習室、そして4階には合同ゼミ室などの教室が設置される予定です。

また、大学6号館には最高裁判所の協力を得て設計した模擬法廷室の設置を予定しています。この施設は青山学院の児童・生徒・学生に法律を身近に感じてもらうため、模擬法廷開催時はもちろんのこと、それ以外の時間でも

初等部から大学各学部まで、青山学院全体に開放していくことが考えられています。

●法科大学院の概略

【名称】青山学院大学大学院法務研究科法務専攻
※別称:青山学院大学法科大学院
【入学定員】60名(うち法学未修者約40名・法学既習者約20名)
【専任教員】15名(うち実務家教員4名)

学費は初年度200万円未満、2年次以降は170万円弱を予定しています。他大学を見ても年間約200万円前後となっており、これは学費負担者にとって決して小さい金額ではありません。そのため、本学では、より多くの人に法曹を目指してもらえるよう独自の奨学金制度を設けて、希望する学生全員に奨学金を無利子で貸与できるよう計画しています。

なお、入学選抜に関しては、本学法科大学院では、日弁連法務研究財団と大学入試センターが8月にそれぞれ実施する全国統一の適性試験を2つとも受験することが求められています。その後に青山学院大学法科大学院独自の試験等があります。詳細はホームページ(http://www.als.aoyama.ac.jp/law_school/index.html)をご覧ください。その他お問い合わせは専門職大学院事務局(TEL 03-3409-8025)まで。

大学院への進学について

本学大学院では、大学の学部・学科に対応した6研究科ならびに独立研究科(国際マネジメント研究科)を設置しています。それぞれに博士前期課程・修士課程・博士後期課程があり、現在約1,000名の大学院生が各分野の研究に取り組んでいます。

各研究科とも少人数のゼミ形式で授業を行い、マンツーマンに近い緊密な指導体制を取るなど、一人ひとりの研究成果を高めるようさまざまな面で配慮しています。経営学研究科、国際政治経済学研究科、国際マネジメント研究科では、優秀な学生に早期に研究機会を与えるために、学部3年次を修了して進学できる[学内飛び級制度]を導入しています。また、経営学研究科と国際政治経済学研究科では、学部4年次の大学院進学予定者に大学院科目の履修を認める[大学院授業科目特別履修生制度]も用意。研究者を目指す学生は博士後期課程に進学することもできます。また、生涯教育における役割を重視しており、「社会に開かれた大学院」として、向学心や研究意欲旺盛な社会人のために、多様なライフスタイルに配慮して[昼夜開講制]を実施。さらに、フルタイムで学ぶことが難しい人のために、限られた時間を活用して興味のある科目を学ぶ[科目等履修生制度]も実施しています。

博士前期課程・修士課程の入学試験は、本学部生のほか他大学出身者や社会人を対象にした[一般入試]を主に9月～10月に実施。また、本学部生のみを対象とした[学内進学者選抜試験]は主に6月～7月(文学研究科は10月頃)に実施します。こちらは、受験資格として科目履修や成績などの条件をクリアしていることが必要です。大学院進学を希望する場合は早めにそれらの条件を調べて、学部での履修計画を立てていく必要があります。[学内飛び級入試][大学院科目特別履修生試験]には、それぞれ卒業要件単位の取得(90%以上)と成績基準(G.P.A.2.40～2.70以上)、外国語要件単位の取得とその成績基準(G.P.A.2.40～2.70以上)が設けられ、希望者はまずこの条件をクリアしている必要があります。

詳細は、青山キャンパス総合研究所ビル2階の大学院事務局(Tel 03-3409-7831)まで。国際マネジメント研究科については大学5号館1階の専門職大学院事務局(Tel 03-3409-8025)、理工学研究科については相模原キャンパス学生支援ユニット学務グループ(Tel 042-759-6033)へお問い合わせください。

2003年度在籍学生数

2003.5.1現在

博士前期課程・修士課程			
研究科・専攻	学内進学者数	在籍学生数	
文学	教育学※	—	22
	心理学※	3	26
	英米文学※	—	28
	フランス文学・語学	—	9
	日本文学・日本語	—	11
	史学	—	31
小計	3	127	
経済学	経済学	5	21
	私法	3	20
法学	公法	0	19
	小計	3	39
経営学	経営学※	10	40
理工学	物理学	35	81
	化学	26	51
	機械工学	24	68
	電気電子工学	33	70
	経営工学	20	51
	小計	138	321
国際政治経済学	国際政治学※	1	41
	国際経済学※	1	26
	国際ビジネス※	—	12
	国際コミュニケーション※	0	71
小計	2	150	
国際マネジメント	国際マネジメント※	2	142
合計	163	840	

学内進学者数は学内進学者選抜試験による2003年4月入学者数。在籍学生数には、博士後期課程の人数を含みません。※印の専攻は昼夜開講制。

2002年度就職活動を振り返って



2002年度の就職環境は全体としてはいぜんとして厳しい状況下にありました。数字・統計的なもの以上に学生たちの就職活動の日々のなか

にその厳しさを感じ取ることがありました。きわめて厳しい経済情勢の下にあって、企業は必ずしも求人数を確保するような員数合わせは

しなくなりました。いわゆる厳選採用に、より拍車がかかっているといえます。不本意ではありますが、かなり多くの学生が就職活動当初「とり

あえずひとつ内定がほしい」と考え「どうしたら次に進めるか、どこなら内定がもらえるか」ということに熱心に取り組んでチャレンジし、企業側の

厳選採用の壁にはね返されました。同じ企業が一方では「質の高い人材」と出会った場合は採用予定

就職者数ランキングベスト20

Table with 4 columns: Rank, Company Name, 2002 Degree, 2001 Degree. Lists top 20 companies for Humanities/Social Sciences.

*1 みずほフィナンシャルグループ *2 安田火災海上保険、日産火災海上保険の合計

学生が多く見られるようになりました。少々主観的ですが、これらネット頼みの学生の多くは就職部の利用

が少ない傾向があったのではと想像しています。5~6月頃には就職情報誌からの採用情報はほとんど届かなくなり、それに伴って彼らの就職

意欲も減退していったようです。その頃就職部の廊下には多数の会社説明会の案内が掲示されてい

ましたし、その後も追加募集・二次募集を含め多くの案内をいただきました。2003年の3月まで求人

はありました。これらの求人が本学のみにはいたったものでないことは充分承知

していますが、それでも「青学生」に対する意欲は不特定多数の学生

に公開されるネット上の求人とは比較にならないものがあったことは想像

に難くありません。就職部を利用せずに就職活動を完結し、満足な成果を得られた人

たちも多数いたであろうことを喜ばしく思います。しかし、もしも将来に迷

うことや疑問に思うことがあったり、思うように就職活動が進まなかったら就職部を覗いてみるのも

良いのではないのでしょうか。就職活動はかなりアナログです、きつとしばらくのあいだは。

(就職部就職課長 上倉功記)



就職部資料室

Table with 4 columns: Rank, Company Name, 2002 Degree, 2001 Degree. Lists top 20 companies for Engineering.

理工学研究科生を含む

2003年度就職関係行事日程

Two tables showing job-related events for Aoyama Campus (3rd year) and Himeji Campus (3rd year Engineering, 1st year Engineering).

11月より、相模原キャンパスにおいて、公務員ガイダンス(対象:人文・社会科学系学部1・2年生、理工学部全学年)、人文・社会科学系進路就職相談会(対象:人文・社会科学系学部1・2年生)等を予定。*

2003年度教員採用試験報告

2002年度(2003年3月)の教員免許取得状況は、表に示しましたように、昼間部300名、第二部(夜間部)76名、計376名で、2001年度(359名)と

2002年度教員免許取得および2003年度教員採用状況 2003.5.1現在

Table showing teacher license acquisition and employment status by school level and subject.

*免許取得者数の計は人数計。非常勤および臨時講師は除く。採用者数は2003年5月1日現在届け出のあった者のみ。

1 青山学院大学附置WTO研究センター (WTO Research Center of AGU) が発足

大学附置WTO研究センターは、世界貿易機関(WTO)を取り巻く国際通商に関わる課題の把握と調査研究を通じて、民間シンクタンクとは異なる立場から、大学として広く社会に貢献することを目的として、2003年4月に大学附置の組織として発足しました。本センターでは、WTO関連の情報収集をベースに、本学を中心としたWTO研究の充実を図るとともにアジア・太平洋諸国の関係機関との交流も進めます。すでにセンター業務のひとつとして、産官学の協力を得て、省庁のWTO交渉関係者や、ビジネス・リーダー、消費者団体・環境NGO、本学内外の研究者などによる国際シンポジウムや講演会・研究会が青山キャンパスで開催されています。青山学院校歌には「友と語らん世界の平和」とあります。本学学生・院生のみならず、本センターでの議論や研究に積極的に参加してください。

WTO研究センター所長 岩田 伸人(経営学部教授)

2 第1回青山学院「会計サミット」のお知らせ

7月30日(水)青山キャンパス総合研究所ビル12階大会議室において、第1回青山学院「会計サミット」(“どう変わる!公認会計士の業務と試験制度”一改正公認会計士法について考える)が開催されます。

サミットでは、37年ぶりとなる公認会計士法の改革の実態に迫り、多面的な検討が行われる予定です。

●第一部 公開シンポジウム…14:00~16:15

「公認会計士に寄せる期待と課題—「会計専門職大学院」の果たす役割—

●第二部 特別講演会…16:30~17:15

「公認会計士の役割と期待」

講演者/衆議院議員 塩崎恭久氏(自民党財務金融部会長)

問い合わせ先:庶務部学長事務室 TEL03-3409-7955

3 相模原祭・りこうがくぶ公開のお知らせ

相模原キャンパスが開学し、初めての「相模原祭(仮称)」および「りこうがくぶ公開」が10月11日(土)・12日(日)の2日間にわたり、同時に開催されます。相模原祭では、人文・社会科学系学部の1・2年生および理工学部の学生が中心となり、展示会、演奏会、各種模擬店、講演会、スポーツ大会などが行われ、「りこうがくぶ公開」では、理工学部各研究室の開放や研究発表、公開講座など、理工学部ならではの催し物が行われます。この2つの祭典の融和により、盛大で有意義な学術・文化の祭典になるよう、現在、準備を進めています。ご期待ください。

4 第10回大学同窓祭開催のお知らせ

9月23日(火・祝)10:00~、青山キャンパスにおいて“The Light Still Burns True”をコンセプトに第10回大学同窓祭が開催されます。開会音楽礼拝、講演会(林真理子氏)、神崎愛氏と青山学院大学管弦楽団コンサート、フォーラム2003(基調講演とパネルディスカッション)、公開講座、青山寄席、日産マーチ、OPEL VITA(懇親パーティー)の抽選会等があります。

詳細は同窓祭ホームページ

<http://www.AGU-dousousai.com>をご覧ください。

問い合わせ先:同窓祭実行委員会事務局 TEL 03-3409-8990

5 新役員紹介 大学宗教部長 東方 敬信

鈴木 有郷教授は2003年3月末日をもって任期を満了し、後任に経済学部 東方 敬信教授が就任しました。任期は2003年4月より2年間。東方 敬信教授は1944年生まれ。東京神学大学院神学研究科組織神学専攻博士課程退学。神学修士。

6 第54回対東北学院大学総合定期戦

5月31日(土)から6月2日(月)、東北学院大学(仙台市)を舞台に15種目の定期戦が行われました。第54回を迎えた今回の定期戦では、各会場で白



熱した試合が展開された結果、東北学院大学が8勝7敗で総合優勝を果たし、本学の通算成績は35勝19敗となりました。2004年の第55回総合定期戦は、本学で開催されます。両校の選手ならびに関係者の親睦がより深まるものと期待されます。

問い合わせ先:学生部学生課 TEL 03-3409-7835

7 青山交流バスツアー

5月11日(日)、課外教育プログラム「青山交流バスツアー」を開催しました。この企画は各々異なった立場の学生が、日本の文化に触れることを通じて交流を深めるとともに、学年や国籍、学部・学科を越えた友人がで



皇居にて

ることにより、今後の学生生活をより有意義に送ってもらうことを目的としています。当日は新入生15名、在学生10名、留学生20名の参加者が浅草仲見世散策、江戸東京博物館、および皇居二重橋付近を見学しました。見学後の懇談会では、このような機会を多く設けてほしいと、学生からは大変な好評を得ました。

問い合わせ先:学生部学生課 TEL 03-3409-7835

8 相模原キャンパス周辺クリーンウォーク

5月28日(水)、課外教育プログラム「相模原キャンパス周辺クリーンウォーク」(いつもお世話になっている地域住民の方々に感謝をこめて!)を開催しました。当日は約60名が参加し、通学ルートを3グループに分かれて清掃が行われ



ました。参加者からは、「タバコの吸殻が想像以上に多かった(通学路でのタバコは禁止にすべき)」「町の人に声をかけてもらった」「他キャンパス・他学部の人と友達になれた」「参加者が多くてびっくりした」など多くの意見が寄せられました。

9 清里サマーカレッジ

静かな大自然の中にある清里・八ヶ岳寮で、学生と教員が生活を共にしながら、聖書や讃美歌に親しみ、年齢や学部・学科にとらわれずに参加者同士が語り合える機会です。2003年度は7月31日(木)~8月2日(土)、「命の尊厳を求めて—競合から共生社会へ、私たちにできること」という主題のもとに開かれます。生きることや愛することなどについて、一緒にじっくりと考えてみましょう。

問い合わせ先:青山学院宗教センター TEL 03-3409-6537

News Index 2003.05~06 WEEKLY AOYAMAのタイトル紹介

2003年5月上旬~6月中旬までの主なタイトルを掲載しています。

03年5月

- 相模原キャンパス新アリーナオープニングフェスティバル開催
- NHKラジオ第2の文化講演会で本学公開講座
- John Wesley 生誕300年記念礼拝
- 警視庁渋谷署員対象の特別講座を開講
- 理工学部電気電子工学科 井出英人教授が「第59回電気学術振興賞」を受賞
- 理工学部電気電子工学科 中田時夫助教授らの研究グループが太陽電池用新材料の薄膜で高効率を実現
- 理工学部機械創造工学科 竹本幹男教授が「2002年度Publication Award」を受賞

03年6月

- 理工学研究科電気電子工学専攻桑原潤史さんが第14回応用物理学会「講演奨励賞」受賞
- 理工学部電気電子工学科 橋本 修教授ららびに同研究科芳賀 知さんが社団法人エレクトロニクス実装学会論文賞を受賞
- ビジネス体験プログラム「ギネス」開催
- 青山キャンパスからNHKニュース「おはよう日本」天気中継放映
- 青山学院大学WTO研究センター主催シンポジウム「WTOとFTA」開催のお知らせ
- 青山学院大学日本文学会春季大会のお知らせ
- 青山学院大学法学会主催講演会「開発課題に取り組むUNFPA—その現場から—」開催のお知らせ

2003年度後期 公開講座・公開講演会

〈青山キャンパス公開講座〉 フランスを知る—文学と歴史の諸相—
 9/27(土) 書物に見る十八世紀フランス—「百科全書」と知のコミュニケーション—
 文学部専任講師 井田 尚
 10/4(土) 〈バイユー・タビスリー〉を読む
 —「西洋絵巻」に見るノルマン人のイングランド征服と
 11世紀の風俗— 文学部教授 高橋 達史
 10/11(土) ブルースと発明の時代
 —電話、自動車、飛行機を作家はいかに描いたか—
 文学部助教授 和田 恵理
 10/18(土) 女の生きる場所—サリ法からパリまで—
 国際政治経済学部教授 支倉 壽子
 10/25(土) 土地の精霊—南仏の風土と文化—
 文学部助教授 荒木 善太
 時 間:14:30~16:00
 会 場:青山学院大学青山キャンパス 大学11号館1123教室
 申込期間:9/3(水)~10(水) [申込期間内往復はがきにて必着のみ受付]

〈渋谷区・青山学院大学共催公開講座〉 心理療法の世界
 11/15(土) こころの成長と自己実現
 —心理療法によって育まれる個人のポテンシャル—
 文学部助教授 平山 栄治
 11/22(土) 社会の変化と青年のこころ—かけがえのなさを認めて行く—
 文学部助教授 北村 文昭
 11/29(土) 中学・高校生のこころ—スクール・カウンセリング活動の実践から—
 中野心理オフィス室長 細野 正美
 12/6(土) 生きるということと病むということ—心のよりどころをどう見つけるか—
 大正大学教授 村瀬 嘉代子
 12/13(土) 幸せに生きる—内観法の世界—
 法学部教授 石井 光
 時 間:14:30~16:00
 会 場:青山学院大学青山キャンパス 大学11号館1123教室
 申込期間:10/15(水)~22(水) [申込期間内往復はがきにて必着のみ受付]

〈相模原キャンパス公開講座〉 江戸時代における情報と変革
 9/27(土) 長崎出島と海外情報—鎖国・禁教下の世界知識—
 本学名誉教授 片桐 一男
 10/4(土) ものを通しての情報—近世オランダ船舶載品考—
 鶴見大学文学部教授 石田 千尋
 10/18(土) 開国前夜の情報と幕府
 —ペリー来航予告をめぐる雄藩大名との連携と確執—
 明海大学経済学部助教授 岩下 哲典
 10/25(土) 幕末の豪農と情報 文学部助教授 岩田 みゆき
 11/1(土) 幕末平田派の展開と情報 文学部教授 沼田 哲
 時 間:14:30~16:00
 会 場:青山学院大学相模原キャンパス E棟E102教室
 申込期間:9/3(水)~10(水) [申込期間内往復はがきにて必着のみ受付]

〈公開講演会〉
 水戸市/9/20(土) 三の丸ホテル
江戸時代における情報と変革
 第一部:幕末の豪農と情報
 文学部助教授 岩田 みゆき
 第二部:長崎出島と海外情報—鎖国・禁教下の世界知識—
 本学名誉教授 片桐 一男
 静岡市/9/23(火・祝) ホテルセンチュリー静岡
日本再生への課題—グローバル・コンテキストの中で—
 第一部:日本企業再生の条件—ジャパン アズ ナンバーワンは復活するか—
 国際政治経済学部教授 港 徹雄
 第二部:アジア・太平洋とどう付き合うのか
 国際政治経済学部教授 菊池 努
 新潟市/10/13(月・祝) 新潟グランドホテル
国際社会の見方
 第一部:マーケティングからみた国際社会
 —日本のマーケティングは世界に通用するか—
 経営学部教授 小林 保彦
 第二部:経済からみた国際社会
 —為替相場の教えるもの—
 経済学部教授 中澤 進一
 いずれも開催時間、申込方法等、詳細については現在調整中です。

詳細については、下記にご連絡いただくか、本学ホームページをご
 覧ください。
 問い合わせ先:〒150-8366 (郵便番号のみで届きます)
 青山学院大学 庶務部長事務室 公開講座担当
 Tel 03-3409-7955
<http://www.aoyama.ac.jp/daigaku>

2004年度一般入学試験日程決定

学部・学科・コース・方式	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続日
理工学部 化学科※ 機械創造工学科 経営システム工学科 物理学科※ 電気電子工学科 情報テクノロジー学科	1/7(水)~1/26(月) 郵送受付に限り、 (締切日消印有効)	2/10(火)	2/17(火)	2/24(火)
		2/11(水)		
文学部 教育学科(B方式) 英米文学科(A方式) フランス文学科 日本文学(B方式) 史学科 心理学科星間主コース 教育学科(A方式) 英米文学科(B方式) 日本文学(A方式) 心理学科夜間主コース	1/7(水)~1/26(月) 郵送受付に限り、 (締切日消印有効)	2/13(金)	2/20(金)	2/27(金)
		2/14(土)		
経営学部	1/7(水)~1/30(金)	2/15(日)	2/21(土)	3/1(月)
法学部	郵送受付に限り、 (締切日消印有効)	2/17(火)	2/23(月)	3/1(月)
国際政治経済学部	郵送受付に限り、 (締切日消印有効)	2/18(水)	2/24(火)	3/2(火)
経済学部	郵送受付に限り、 (締切日消印有効)	2/19(木)	2/25(水)	3/3(水)
文学部第二部 経済学部第二部 経営学部第二部	郵送受付(締切日消印有効) 1/7(水)~2/13(金) 窓口受付(青山キャンパス) 2/19(木)に限り。	2/26(木)	3/3(水)	3/10(水)

※2004年4月、理工学部物理学科は「物理・数理学科」に、化学科は「化学・生命科学科」に改組を計画 중이다。
 【学費納入方法】学費は所定期間内に一括納入を原則としますが、他大学を併願し延納を希望する場合は、入学申込金(入学金相当額)を納入し、残りの学費は延納の願い出により3月24日(水)までに納めることができます。

2003年度進学相談会後期開催日程

青山学院大学では、本学受験を希望する受験生に情報を提供し、本学への理解を深めていただくため、進学相談会に参加しています。9月下旬までの開催日程は下記の通りです。

9/24(水) 水戸 水戸プラザホテル	9/16(火) 福井 福井フェニックスプラザ	9/18(木) 松山 愛媛県民文化会館
9/25(木) 宇都宮 マロニエプラザ	9/17(水) 金沢 金沢全日空ホテル	9/19(金) 高知 高知新風会ホテル
9/26(金) 高崎 高崎サンパレス	9/18(木) 富山 富山全日空ホテル	8/20(木) 福岡 アクロス福岡
9/3(水) 大宮 大宮ソニックシティ	8/7(木) 名古屋 愛知体育館	9/16(火) 鹿児島 かがしま国際
9/4(木) 千葉 ベリエ	8/30(土) 名古屋 中小企業振興会館	ジャンブルパーク
9/6(土) 新宿 新宿NSビル	9/6(土) 静岡 ツインメッセ静岡	ペイサイドガーデン
9/10(水) 川越 西武本川越PePe	8/9(土) 大阪 マドームおおさか	9/17(水) 宮崎 MRT micc
9/13(土) 横浜 横浜新都市ビル・横浜そごう	8/30(土) 大阪 大阪城ホール	9/18(木) 大分 トキハ会館
9/5(金) 甲府 ベルクラング甲府	8/23(土) 広島 基町クレド	9/22(月) 長崎 長崎プリンスホテル
9/9(火) 長岡 ホテルニューオータニ長岡	9/13(土) 広島 広島グリーンアリーナ	9/24(水) 佐賀 マリトピア
9/10(水) 新潟 ホテル新潟	9/19(金) 下関 海城メッセ下関	9/25(木) 熊本 ホテル日航熊本
9/11(木) 長野 ホテル外郎村/タン長野	9/4(木) 徳島 ホテルクレメント徳島	
9/12(金) 松本 ホテルエナピスタ	9/5(金) 高松 高松市民文化センター	

※開催日、会場等に変更になる場合がありますので、広報入試センター広報課にお問い合わせください。

「AGU受験相談会inさがみはら」開催報告

6月7日(土)、相模原キャンパスにおいて「AGU受験相談会inさがみはら」が開催されました。当日は、相模原キャンパス施設概要紹介のほか、全学共通教育システム「青山スタンダード」概要紹介、理工学部研究室公開、メディアセンター見学ツアーなどが行われ、本学に対して意識の強い熱心な高校生とご父母等1,740名が来場しました。

Club & Circle Information

2003年度主要活動予定(2003年9月~9月)

問い合わせ先 学生部学生課
 Tel 03-3409-8111(内線12163, 12164)

*主な体育連合会・文化連合会の活動予定。大会等の日程は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

弓道部 全日本学生弓道選手権大会(8月) バドミントン部(女子) 東日本インカレ(8月)
 自動車部 全日本学生ジムカーナ選手権大会(8月) 全日本学生ダートトライアル選手権大会(8月)
 滑艇部 全日本大学選手権(8月) ソフトテニス部(男子) 全日本学生大会(8月)
 ソフトテニス部(女子) 全日本学生大会(8月) 卓球部 全日本大学対抗卓球大会(8月)
 チアリーディング部 JAPAN CUPチアリーディング日本選手権大会(8月)
 レスリング部 全日本学生選手権(8月) 全日本学生フリー王座決定戦(9月)
 青山ミュージックソサイエティ 早稲田・慶應合同ライブ(9月)
 チェックメイト 関東オール学生個人戦(8月) 全国オール学生団体戦(9月)
 舞踏研究会 松前杯(9月)
 ロイヤルサウンズジャズオーケストラ 山野BIG BAND JAZZ CONTEST(8月)

エレミヤ —福音を待望する預言者—

大島 力
理工学部教授・宗教研究主任



1953年生まれ。東北大学文学部史学科西洋史専攻卒業。東京神学大学神学部旧約神学専攻博士課程後期単位取得満退学。神学修士。専門分野は旧約聖書学、日本基督教団石神井教会主任牧師を経て、1996年に青山学院大学理工学部宗教研究主任に就任。1999年より理工学部教授となる。

紀元前8世紀から5世紀にかけて、古代イスラエルには「預言者」と呼ばれる人々が登場し、後の歴史に大きな影響を与えました。そのなかで最も「新約聖書」の思想に影響を与えたのは、エレミヤという預言者であったと言えるでしょう。それは、エレミヤの活動の原点が、「契約思想」であったからなのです。

契約という概念の由来に関しては様々な見解がありますが、少なくともその源流の一つは旧約聖書にあることは間違いありません。それは古くはエジプト脱出の途上で、イスラエルの民がシナイ山でヤハウェの神(=旧約の神)と結んだ「シナイ契約」に見出されます。その内容の根本は有名な「モーセの十戒」です。「あなたには、わたしをおいてほかに神があつてはならない」(=第一戒)。この戒めは旧約聖書の思想の根本ですが、エレミヤという預言者はその神との契約を自らの拠点として、活動した人物でした。

当時のイスラエル(ユダ王国)の状況は一期、ヨシヤ王という名君によって改革がなされ(紀元前7世紀後半)、ダビデ王やソロモン王以来の王国の権威が回復されたかに見えていました。しかし、ヨシヤ王の死後、宗教的にも社会的にも混乱と不正が横行し、さらに対外的には世界帝国バビロニアの脅威が間近に迫って来ていました。そのような中で、エレミヤは「預言者」としての使命を与えられ、言葉と行動とでイスラエルの人々に警告を發し続けたのです。そのエレミヤの活動を、5つの時期に分けて見てみましょう。

I. エレミヤの召命(626年)

エレミヤは「若者」の時に、神からの召命(呼びかけ)を受けました。それは、ヨシヤ王の時代であり、ユダ王国は繁栄を回復し、人々はそれを享受していた時でした。しかし、神はエレミヤに、その繁栄に酔うことなく目覚めて、預言者として真実を語るように求めました。その時、エレミ

ヤはまだ弱齡(12-3才?)であったので「ああ、主なる神よ、わたしは語る言葉を知りません。わたしは若者にすぎませんから」(1章6節)と答えています。

しかし、神は「目覚めの木」といわれるアーモンド(シャークード)の枝を見せて、エレミヤを預言者として立てました。そして、北から災いが近づいて来ていることを、「煮えたぎる鍋」の幻(ヴィジョン)によって示したのです。それは、その後、勢力を増してくるバビロニアの脅威を意味していました。

II. 初期の預言 ヨシヤ王の死(609年)まで

この時期にエレミヤは繰り返し「北からの敵の歌」をもって、ユダ王国の人々に警告を發しました。その脅威のゆえに、エレミヤの心臓は呻き「わたしは黙していられない」と語っています(4章19節)。しかし、ヨシヤ王のもとで、国家的に高揚していた人々には、それは奇異な言葉に聞こえたでしょう。ここからエレミヤの苦難が始まることになります。すでに、その時、王国内においては異教の神バアルへの傾斜が強まり(2章23-25節)、十戒の第一戒をはじめとする神との契約が破られつつありましたが、人々はそれを深刻には受けとめていなかったのです(11章)。

III. 中期エレミヤの苦難

ヨシヤ王死後のユダ王国の衰退期

エレミヤは、神から命じられた通り語ることで苦難を受けることを「嘆き」として告白するようになります。その典型的な例は20章7-18節です。「神の名」において自分が語れば語るほど苦難と迫害を受けるが、その神の言葉は自分の内において「火のように燃え上がり」押さえつけることはできないと言います。また、こんな苦しみを受ける自分は生まれてこないほうが良かったとさえ言います。エレミヤはそれゆえ、以前のように「上から下に」語る預言者ではなく、

自らの破れと嘆きにおいて神を示す「下から上に」語る預言者でした。

IV. 後期エレミヤの象徴行為

バビロン捕囚(587年)前後

強大となったバビロニア帝国によって脅威が現実化しても、ユダ王国の将来に楽観的な見方をする者たちがいました。その代表格は、ハナンヤという人物であり、「二年のうちに」問題は解決すると言っていました。しかし、エレミヤは自ら「鉄のくびき」を負い、その楽観論を批判し、神との契約を破ったイスラエルの民の罪を指摘し続けました。実際に自分の首に「鉄のくびき」を負う行為は、バビロニアによって長期間にわたり苦しみを受けることを示す「預言者的象徴行為」でした。

V. 晩年の預言

エレミヤの最終的な希望の告白

しかし、エレミヤは決して絶望だけを語る預言者ではありませんでした。最後には、破られた神との契約が、罪の赦しにより、神の手でもう一度新しく結ばれることを告げています。それが「新しい契約」と呼ばれる希望の預言です(31章31-34節)。その場合、もはや戒めは「石板」ではなく心に「刻まれ、外からの強制ではなく、内発的に人々が神の戒めを守るようになる」と告げられています。この預言が、新しい契約、すなわち「新約」の時代を準備することになったのです。エレミヤはその意味で「福音を待望する預言者」でした。



夏期休業期間中の窓口案内

対象期間 8/1(金)～9/27(土)
一斉休業期間 8/1(金)～8/7(木)

※詳細は各キャンパスの掲示板をご覧ください。

部署	窓口事務取扱期間	曜日	取扱時間	備考
庶務部	8/8～9/12	月～金	9:00～16:00	9/13(土)より平常通り
教務課	8/8～9/12	月～金	9:00～19:00(11:30～12:30は除く)	9/29(月)より平常通り
	9/13～9/27	月～金	9:00～19:00(11:30～12:30は除く)	
教職課程課	8/8～9/12	月～金	9:00～19:00(11:30～12:30は除く)	9/13(土)より平常通り
	9/13～9/27	土	9:00～19:00(12:00～15:30は除く)	
学生部	8/8～9/12	月～金	9:00～19:00(11:30～12:30は除く)	9/29(月)より平常通り
	9/13～9/27	土	9:00～19:00(11:30～16:00は除く)	
就職部事務室	8/8～9/12	月～金	9:00～11:30, 12:30～15:30	土曜のみ9:00～12:00
就職部資料室	9/13～9/27	月～土	9:00～11:30, 12:30～16:00	土曜のみ9:00～12:00
図書館	8/8～9/12	月～金	9:00～16:00	土曜のみ9:00～13:00
	9/13～9/27	月～土	9:00～17:00	
図書館	8/8～9/11	月～土	9:00～19:00(土曜のみ13:00～19:00)	9/12(金)より平常通り 休館中の本の返却は図書館正面のブックポストに入れてください
専門職大学院事務室	8/8～9/12	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/13(土)より平常通り
大学院事務室	8/8～9/12	月～金	9:00～15:30(11:30～12:30は除く)	
広聴入試センター	8/8～9/12	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	
総合研究所事務室			9:00～19:00	
情報科学研究センター			9:00～15:30(11:30～12:30は除く)	
国際交流センター			9:00～15:30(11:30～12:30は除く)	
外国語ラボラトリー	8/8～9/12	火・金	9:00～19:00	
学生相談センター	9/16～9/26	月～金	9:00～16:00	9/29(月)より平常通り
	8/8～9/12	月～金	9:00～16:00	
保健管理センター	9/13～9/27	月～土	9:00～17:00(土曜のみ11:30まで)	9/29(月)より平常通り
	8/8～9/12	月～金	9:00～15:30	
宗教センター	※8/18～8/25	月～金	9:00～15:30, 17:30～20:00	9/29(月)より平常通り
	9/13～9/27	月～土	9:00～16:00(土曜のみ11:30まで)	
8/8～9/10	月～金	9:00～16:00	9/29(月)より平常通り	
9/11～9/28	月～土	9:00～17:00(土曜のみ13:00まで)		

ユニット	グループ	窓口事務取扱期間	曜日	取扱時間	備考
学生支援ユニット	チュード学生センター	8/8～9/12	月～金		
	学務グループ	8/8～9/12	火・金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/16(火)より平常通り
	進路グループ				
	国際交流グループ				
	学生生活グループ				
健康管理グループ(保健管理センター事務室)	8/8～9/12	火・金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/16(火)より平常通り	
健康管理グループ(学生相談センター事務室)	8/8～9/12	火・金	9:00～16:00	9/29(月)より平常通り	
教育・学習支援ユニット	授業支援グループ	8/8～9/12	火・金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/16(火)より平常通り
	情報教育支援グループ(情報科学研究センター)	8/8～9/12	月～金	9:00～16:00	9/29(月)より平常通り
	9/16～9/27	月～土	9:00～17:00(土曜のみ13:00まで)		
図書グループ(図書館)	8/8～9/12	月～土	9:00～16:00(土曜のみ13:00～19:00)	9/29(月)より平常通り	
	9/13～9/27	月～土	9:00～17:00(土曜のみ13:00まで)		
メディアライブラリーグループ	8/8～9/12	月～金	9:00～16:00	9/16(火)より平常通り	
研究支援ユニット	8/8～9/12	月～金	9:00～16:00		
企画・渉外ユニット	企画グループ	8/8～9/12	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/16(火)より平常通り
	地域渉外交流グループ				
庶務ユニット	8/8～9/12	月～金	9:00～16:00(11:30～12:30は除く)	9/16(火)より平常通り	
経理・施設グループ					
宗教センター					

前期終了科目 成績通知について

前期終了科目の成績通知は、9月中旬以降、各キャンパス内設置の学内情報端末および学生証リーダー付PCにて行います。なお、当該年度末までの成績は来年3月中旬頃保証人宛に郵送しますが、卒業決定者については保証人宛に郵送せず、学位授与式当日、学生本人に配布する予定です。

大学学費納付について (大学院の学費納付については、大学院要覧を参照してください)

1. 学費振込依頼書発送時期

- 後期振込依頼書発送予定日9月9日(火)【納付期限10月3日(金)】
- 学費振込依頼書は、上記の日程で保証人宛(第二部のみ申し出があった場合は学生宛)に送付致します。
- 学費振込依頼書に記載の銀行本・支店での振込みは、振込手数料は無料です。
その他の都市銀行、地方銀行、信用金庫、信用組合、農業組合等での振込みは、振込手数料が必要になります。

※注意 自動振込機による振込は絶対にしないようご注意ください。
(学費納入の確認が不可能のため)

2. 下記事項問い合わせ先(学費未納等事故防止のため)

- 住所変更(保証人・本人) → 学生部厚生課(青山キャンパス)
学生生活グループ(相模原キャンパス)
- 休学・退学希望者 → 昼間部(3・4年)および第二部は学務部
教務課(青山キャンパス)
昼間部(1・2年、理工学部全学年)は
学務グループ(相模原キャンパス)

(3) 学費振込依頼書紛失 → 経理部出納課

(4) 転部・編入学・転学部・転学科・再入学の学生の学費は、経理部出納課にお問い合わせください。

3. 納付期限の延納を希望する場合は、納入期限までに各キャンパスの学生部または学生生活グループへ願い出てください。

無断で学費を滞納すると除籍になる場合もありますので注意してください。

【青山キャンパス 03-3409-8111(代表)】
【相模原キャンパス 042-759-6000(代表)】

2003年度学費一覧表(入学年度別)

単位:円

学部	年度			
	2003年度入学生	2002年度入学生	2001年度入学生	2000年度入学生
文学部	後期	後期	後期	後期
経済学部	360,500	360,500	360,500	360,500
法学部				
経営学部				
国際政治経済学部				
理工学部	524,000	524,000	524,000	524,000
文学部第二部				
経済学部第二部	227,000	224,000	224,000	224,000
経営学部第二部				

・上記以外に、文学部(教育学科以外)・法学部・国際政治経済学部・理工学部の学生でスポーツ(実技)を履修する者は、体育実習料として3,000円が後期授業料に加算されます。

第二部の学生でスポーツ(実技)を履修する者は、体育実習料として2,500円が後期授業料に加算されます。

・上記学費一覧表は、転部・編入学・転学部・転学科・再入学・留年等は除きます。
経理部出納課 03-3409-6479(直通)

相模原キャンパス開学記念シンポジウム開催報告

2003年6月3日(火)～5日(木)の3日間、青山、相模原両キャンパスにおいて海外からノーベル賞受賞研究者らを招いて、「近未来の科学と社会」の統一テーマのもと相模原キャンパス開学記念シンポジウムが開かれました(主催:青山学院大学、後援:神奈川県、相模原市、相模原商工会議所、三菱総合研究所、みずほ総合研究所、(財)日本聖書協会)。

各講演会には、本学学生・教職員をはじめ研究者や一般市民が多数参加しました。特に相模原キャンパスでは周辺地域住民の姿が目立ち、「開かれた大学」をPRしました。初日はマーガレット・イー博士(オックスフォード大学)が「科学と宗教」を、2、3日目は今回

のメインゲストであるノーベル経済学賞受賞者のジェームズ・マーリーズ教授(ケンブリッジ大学)がそれぞれ「情報と社会厚生」、「ニューエコノミーと生活の質」をテーマに講演。延べ900人を超える聴衆が熱心に聞き入り、さらに日本人講演者として稲垣久和教授(東京基督教大学)や酒井博司氏(株式会社三菱総合研究所)が加わり、各講演に色を添えました。

どちらかというとい硬いテーマではありましたが、いずれも身近でわかりやすい表現による講演で、終了後の質疑での丁寧な対応も好評でした。またアイビーホール学生会館で行われた歓迎レセプションにも多数の参加者があり、終始和やかな雰囲気、こちらも盛況でした。



歓迎レセプションにて



マーガレット・イー博士



ジェームズ・マーリーズ教授

青山学院創立130周年記念行事「統一テーマ」および「ロゴマーク」を募集

青山学院は2004(平成16)年に創立130周年を迎えます。創立130周年を迎えるにあたり、青山学院の将来に向けて、充実発展をアピールする「統一テーマ(フレーズ)」および「ロゴマーク」を皆様から募集することになりました。是非とも奮ってご応募くださるようお願い申し上げます。応募の詳細については、青山学院ウェブサイト(アドレス

<http://www.aoyama.ac.jp>)およびポスターでお知らせしています。

【応募資格】青山学院在学学生、校友、教職員、青山学院関係者

【応募期限】2003年9月30日(火)

【応募要領配布先】青山キャンパス:学生部

相模原キャンパス:学生生活グループ

歴代院長とその時代



たかぎみずたろう
高木 壬太郎
第4代院長(1913～1921年在任)

牧師、教育者、学者であると同時に、経営・実務に長け、国際的視野をもった「キリスト教界屈指の有為なる人物」と評される高木は、師範学校卒業後、しばらく小学校教員をつとめ、22歳で平岩愷保より受洗。伝道者を志し東洋英和学校神学部に進んだ後、ヴィクトリア大学で神学を研究し、日本人初の名誉神学博士号を授与されました。1907(明治40)年から青山学院専任教授として

新約神学を講じ、1913(大正2)年、第4代院長に就任。人格教育を根幹とする教育内容の充実と教育環境整備に力を注ぎ、1920(大正9)年には、青山学院大学設置計画を発表。キリスト教大学の設立事業の実現に向けて全力を傾けました。また、学者としても多くの著作を残し、5年の歳月を費やした大著「基督教大辞典」の大半は、独力で編集したといわれています。



1919(大正8)年頃の青山キャンパス

AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行し、在学生の保証人の方々に送付しています。あわせて、本学ホームページには「AGU News on Web」を開発。「AGUニュース」の内容を抜粋して掲載するとともに、大学のタイムリーなニュ

ースを簡潔な文字情報で週ごとにお知らせする「Weekly AOYAMA」ページも設けております。さらに「Weekly AOYAMA」につきましては、2週分のニュースの中から主要な記事を抜粋し、在学生を対象に「AGUニュースレター」として学内のAGUニュース専用スタンドにて配布しています。なお、「Weekly AOYAMA」は、8月より大学が夏期休暇期間となるため、しばらくの間更新を休止いたします。9月下旬より再スタートいたしますので予めご了承ください。

※保証人の方は、お手数ながら本誌を学生へ回付してくださいようお願いいたします。

AGUニュースのバックナンバーはこちらをご覧ください。

<http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>
広報入試センター広報課 ● 2003年7月10日発行 ●